



雪はまだ残っています。早く雪解けが待ち遠しいです。今時期は寒暖の差が激しく、道路ははてか、滑って転ばないようにしたいものです。

平成30年の五稜会病院と社会情勢

今年の五稜会病院は如何に。毎年、新年度になると考えさせられます。昨年は、日本ストレスケア病棟研究会が五稜会病院主管で開催したので、大きな目標となっていました。今年は、研究会開催はありませんが日々安定した精神科医療の実践を継続したいものです。

平成30年、精神科医療の世界は大きな変革の年になります。平成30年4月からの診療報酬の改定。今回は薬価が減額になりますが、医療本体は+0.55%の改定になります。同時に介護報酬と障害報酬の改定。さらに、平成30年4月からは各都道府県で医療計画（平成30年4月～平成33年3月）の策定がなされます。基準病床数の改定があり、北海道の精神科基準病床は現行の18,967床から17,116床(1,851床減)となる予定です。

当院の病床数は193床ですが、現在のところ減る予定はありません。患者さんのニーズにお答え出来るように医療情勢を見据えながら検討していきます。

医療法人社団五稜会病院理事長：中島公博

五稜会病院の理念

情熱と個々への配慮

- 1 患者さんの病前の社会背景と病状を理解し、個々を尊重する治療に努める。
- 2 医療の情報開示を行い、患者さんとの信頼関係を大切に医療を行う。
- 3 地域医療連携を密にし、精神科・心療内科の基幹病院としての役割を担う。
- 4 臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める。

学会・研究発表

平成30年2月、地方会での発表がありました。私たちは最新の医療を提供出来るように、日々研鑽し努力しております。今年は、**昨年の第22回日本ストレスケア病棟研究会**のような当院での研究会開催はありませんが、各種全国学会、地方会、研究会への参加を予定しています。

平成30年2月3日

★第38回札幌市病院学会
「ソーシャルの学習において般化に焦点を当てた個別SST実践での行動変化と考察～症例を通して～」小川大地
「精神科入院患者の友人の自殺を受容する過程～関係スタッフと本人参加カンファを行ったケースを通しての考察～」遠藤愛子

平成30年2月18日

★第43回札幌市医師会医学会
「民間の単科精神科病院における自死症例の検討」中島公博

平成30年2月25日

★第43回日本心身医学会北海道支部例会
「嘔吐への恐怖を主としたパニック様症状による回避行動にエクスポージャーを行った症例」藤井美緒
「ストレスチェックから見た労働者のストレス」中村 亨

今後の予定です。

平成30年7月7日

★第17回北海道病院学会
3演題提出予定

平成30年10月4・5日

★第7回日本精神科医学会学術大会（長野県）
3演題提出予定

他にも

日本ストレスケア病棟研究会
日本産業ストレス学会
日本心理学会
日本認知・行動療法学会
などに参加予定です。

患者さんの権利綱領

五稜会病院の職員は、患者さんの次の権利を順守して日々の医療を行います。

- 1 安全で適正な医療を公平・平等に受ける権利
- 2 個人の生き方、信条、尊厳などが尊重される権利
- 3 病状、検査結果、治療方法・結果などについて、納得のいく説明を受ける権利
- 4 十分な説明や情報提供のもとで、どのような医療を受けるかを選択する権利
- 5 如何なる不利益を受けることなく、検査・治療などを拒否する権利
- 6 希望によりセカンドオピニオン（他の医師の意見を聴くこと）を受ける権利
- 7 如何なる場合も、個人情報やプライバシーが守られる権利

最近の精神科医療政策のご紹介

遠隔診療

現在、ICT（Information and Communication Technology）技術の進展に合わせ、情報通信機器を用いた診療（いわゆる「遠隔診療」）が発達、普及してきています。適切な遠隔診療の普及が行われるためには、その医療上の必要性・安全性・有効性等が担保される必要があります。平成29年12月8日に閣議決定された「新しい経済政策パッケージ」においても、遠隔診療について「必要なルールを包含するガイドラインを整備」し、「一貫性の確保されたパッケージとして今年度内に取りまとめ、公表することとされています。このため、遠隔診療を行うにあたり必要なルールについて検討し、平成29年度内にガイドラインの策定を行うことを目的として、「情報通信機器を用いた診療に関する検討会」を開催することとなりました。第1回の検討会（平成30年2月8日）には当院理事長中島が参加しました。遠隔診療の定義や問題点などについて話し合いがなされました。

公認心理師

今日、国民の心の健康問題は、複雑かつ多様化しており、それらへの対応が急務となっています。これらの問題に対し、他の関係者とも連携しながら心理に関する支援を行う国家資格がわが国にはありませんでした。色々の議論の末、平成27年9月9日、遂に公認心理師法が成立しました。平成29年9月15日に施行され、日本では初の心理職の国家資格として、「公認心理師」制度が推進されることになりました。公認心理師が行う業務について公認心理師法では以下のように定めています。

保健医療、福祉、教育その他の分野において、専門的知識及び技術をもって、

1. 心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること。
2. 心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
3. 心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
4. 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと。

**当院は患者さん本位の医療を提供しようと
考えております。
お気づきの点はお相談下さい。**

治験のご協力をお願い

現在、当院では「**統合失調症**」に対する薬剤の臨床治験を行っています。創薬（薬を創りだす）は国家戦略の一部です。臨床治験を行わないと、良い薬を世の中に出すことは出来ません。参加される方には負担軽減としての費用を差し上げています。今後、AD/HDの治験も予定しています。詳しく知りたい方は主治医にご相談下さい。

統合失調症

典型的な症状は幻聴と妄想です。最近では主治医から病名の告知もなされています。かつてのような不治の病ではありません。適切な薬物療法が必須です。

また、18歳までの年齢で、統合失調症と診断されている患者さんの治験を実施しています。未成年の場合、親御さんの同意が必要です。

うつ病(児童・思春期)

抑うつ気分、興味喜びの喪失感等の症状があればうつ病の診断になります。18歳未満の方が対象です。

五稜会病院 概要

標榜科名：精神科・心療内科・内科・消化器科

病床数	193床		
急性期病棟	48床		
ストレスケア・思春期病棟	48床		
療養病棟A	49床		
療養病棟B	48床		
従業員数	約200名		
医師数	常勤 7名	非常勤	10名
看護師	84名		
薬剤師	2.5名		
臨床検査技師	2名	非常勤	2名
臨床心理士	8名	非常勤	4名
作業療法士	9名	音楽療法士	1名
精神保健福祉士	10名		

五稜会病院沿革

開設	昭和47年
医療法人開設	平成2年

編集後記

平昌オリンピックでは日本の選手の活躍は素晴らしかったです。北海道の選手も頑張りました。パシユートの高木姉妹、佐藤選手、LS北見のカーリングも良かったです。高梨沙羅選手の涙も感動しました。

発行：平成30年2月25日

〒002-8029

札幌市北区篠路9条6丁目2-3



発行責任者：広報委員 清水優子・羽生恵美

電話：011-771-5660

http://www.goryokai.com

mail: GMC@goryokai.com

平成30年、成年

新年も明けてから、既に2月になっています。平昌オリンピックの日本人選手の活躍も素晴らしいです。羽生結弦選手、小平奈緒選手の金メダルには感動しました。女子スケートのシュートも特筆すべきです。北海道出身ということもあり、応援にも熱が入りました。個々の力ではオランダの選手の方が遙かに上ですが、高木菜那、美帆姉妹と佐藤綾乃選手の一糸乱れぬ隊列を組んで、力を温存させて金メダルを獲得するという戦略は、チーム医療を大事にする精神科の医療でも参考にすべきことです。決勝戦では控えに廻った菊池彩花選手の貢献も大きいと思います。女子ジャンプの高梨沙羅選手も頑張りました。それにしても、選手全員がインタビューで答えているのは、今までの応援のお陰、お世話になった人に対する感謝の気持ちでした。人は感謝の気持ちがなければ、成功しないのだということを教えられた気がします。

平成になって30年も経ちました。昭和64年1月7日、昭和天皇が崩御された後に小淵恵三官房長官が「平成」と記者会見で発表したのが思い出されます。平成生まれも30代の方が増えてくるということです。来年の平成31年4月30日に今上天皇が退位するとのこと。従って、5月1日からは元号も「平成」から新元号に変わります。どんな元号になるか興味が湧きます。でも、新しい年号生まれの患者さんの年の計算をするのに苦労しそうです。

さて、平成30年は、精神科医療の世界では大きな変革の年になります。平成30年4月からの診療報酬の改定があります。今回は薬価が減額になりますが、医療本体は+0.55%の改定になるようです。同時に介護報酬と障害報酬の改定もあります。さらに、平成30年4月からは各都道府県で医療計画(平成30年4月～平成33年3月)の策定がなされます。基準病床数の改定があり、北海道の精神科基準病床は現行の18,967床から17,116床(1,851床減)となる予定です。

例年、私は新年の抱負として漢字一字を選んでいきます。今年は「平」を選びました。「平成」も残り1年と少し、北朝鮮の核ミサイル問題もあり「平穏」な世の中になって欲しい、特別なことではなく普通に「人に優しい」医療を行う、ことなどを込めて「平」にしました。何はともあれ心身の健康が一番。すばらしい「ワンダフル」な年にしたいものです。

〈理事長：中島公博〉

GMC 札幌CBT & EAPセンター®

札幌CBT&EAPセンターは2013年に五稜会病院のEAP事業として始めました。

EAP(Employee Assistance Program)とは問題を抱えている働く人たちに、単にカウンセリングや相談の機会を提供するだけではなく、関係する人達や諸機関が総合的に連携することによって、働く人たちの心身の健康を支え、問題解決と予防を図っていくとするシステムです。

医療機関として行っていた職場のメンタルヘルス支援サービスを、病院から独立したEAPセンターを設立することで、より積極的に働いている人の支援や職場のメンタルヘルス対策をサポートすることを目指しています。

現在札幌市を中心に約100社のお客様(企業・医療福祉関係)と契約を結ばせていただいております。五稜会病院と連携し、メンタルヘルス不調の予防、早期発見・早期治療、回復後のリハビリ、職場復帰・再適応、再発予防まで、切れ目なく支援・サポートしております。

〈CBT&EAPセンター 杉淵〉



ストレスチェック研修会

新グループホーム「ハイクI」3月完成



当院では、現在それぞれに特徴を持った4カ所のグループホームを運営しています。今回はそれに加えて、7人定員の女性専用グループホームをオープンします。

建物の特徴としては、1DK・シャワールーム付の個室と、利用者がシェア出来る食堂リビングを配置するなど、プライバシーを守りつつ交流も出来る構造になっていること。また、住宅街の景観に馴染みやすいよう、平屋建てとなっているところです。

ご利用の方の生活を応援するため、夕食(当週4回)を提供するスタッフの他、相談担当、建物の安全維持担当のスタッフを配置しています。利用期間は2年以内です。現在入院中の方でも、ご家族と同居している方でも、「一人暮らしに向けたステップを積み重ねたい」との希望をお持ちの方に活用して頂ける場と考えています。

〈グループホーム担当 三浦〉